

市民広聴会「まちづくりほっとミーティング(第3回)」

会議録(概要)

<テーマ> どうする太陽の城跡地

日時	令和3年7月4日(日)10時~11時45分
会場	図書館交流プラザホール
出席者	参加者(公募)10名、市長

1. 市長あいさつ・広聴会の趣旨説明

・1回目はトイレ革命、2回目は避難所生活について意見を交わした。今回は市民の皆さまが一番関心をお持ちである、太陽の城跡地の活用方法について活発な議論を展開したい。

2. 今回のテーマについての説明

【市長】

・市政だより6月1日号に選挙時公約の一つである、コンベンションホールの再考について掲載させていただいた。税金を投入していくならば最も重要なのは市民の皆さま方からの納得感である。さらに賑わい創出と好循環づくりの力強い核にしていきたいという思いを両立させていくためには、どのような活用の仕方をしていくべきか。いま一度、市民の皆さま方のご意見をお伺いしたい。これまでも数多くの団体の皆さま方と意見交換をさせていただいたが、今日はこうした形で広くご意見を承る機会を設定した。

・まず押さえておきたいのは、「再考」という言葉にも表されているように、既にこの土地においてはこれまで進められてきた現行計画が存在する。現在は事業凍結の協議をしているが、年度内の限られた時間の中で結論を見いだしていかなければならない。

・議会では現行計画の実施・変更・中止、大きく分けてこの三つの選択肢があるのではないかと答弁させていただいた。しかし、その後、意見交換をする中で、単純に三つに分けて議論することは、むしろ難しいと気付いた。市民の皆さま方の多くの声は、いわゆる虹色のように段階的にグラデーション化されており、最終的にはどこか中間的な結論が見いだされるのではないかと。

・現行計画の実施を支持していても、さまざまな市民の要望をプラスしてほしいというご意見がある。あるいは中止とするにしても何らかの形で市民サービスに活用してほしいというご要望があり、まるで手付かずでいいというご意見はほぼない。中止というご意見の趣旨は、建設・管理運営に80億円の費用が想定されているが、それは他の政策に回すべきだというものであり、まちの賑わいや集まれるスペースは不要だということではないと理解している。

・「岡崎城の景観を阻害しない高さの建物」、「ロケーションを活かして市の名所に」、

「障害を持つ子どもや大人が楽しめる施設」、「子どもから高齢者まで楽しく過ごせる場所」、「建物の繋がった屋根・広場・空間が川に繋がるエリア」というようなご意見が多数出た。つまりはいつもの場であると同時に特別の場であってほしいということだ。岡崎市にとって川に面したとても重要な場所であり、川・河川敷・太陽の城跡地が一体となり活用できるものにしてほしいというお声が多い。

・アウトドアもインドアも、フォーマルもカジュアルも、市民の皆さま方にとって身近であると同時に対外的にも誇れる岡崎のシンボル。ある意味、欲張りなぐらい複合的な機能を盛り込んでほしい。それだけ有効に活用すべき土地であり、市民にとっても極めて重要な財産であるという表れた。私は、太陽の城跡地は、皆さまのご意見を両立できる可能性と力のある場所であると思っている。

・今までお聞きしたご意見を集約すると、これは、いわゆる日本家屋の“土間のような存在”になり得るのではないかと。市民の皆さま方は、お客さまを土間の奥でもてなし、河川敷と川に繋がる土間部分においてカジュアルな活用を望んでおられるのではないかと。土間や縁側は、中と外との境にコミュニケーションや本音が現れるのが、私たち日本人が持っている一つの良さではないだろうか。

・まずはこれまでお聞きしてきたご意見を、このようなイメージに取りまとめたことをご報告し、さらにイメージをバージョンアップしていけるような良い会にできたらと思う。

3. 参加者のテーマに関する意見表明

【参加者A】

・小学生と幼稚園の2人の息子がいる母親で、現在は子育て支援団体の代表をしている。太陽の城跡地の活用法について私は児童館を提案したい。

・子育て支援センターやつどいの広場は未就学児のための施設で学区こどもの家は小学生のための施設である。それ以外に0～18歳まで全ての子どもが使える公共施設が岡崎市にはない。子どもたちが好きなときに自由に利用できる、家でも学校でもない第3の子どもたちの安全な居場所としての活用を希望している。

【参加者B】

・岡崎市を中心にイベントの企画・制作・運営会社を営んでいる。

・太陽の城跡地および周辺については、2016年と2018年にコンベンション施設の需要調査がなされたと思うが、コロナ禍において経済状況が大きく変わっている。したがって事業計画の見直しが必要である。またコロナが収束した後も今の段階では経済状況を見通すことができない。そのため、今ある資源を活用した暫定利用の期間を設定して、その間に太陽の城跡地をいかに活用していくかを再考していただきたい。

・多くの市民が団体利用しやすい暫定利用施設が良いのではないかと。ただし経済状況が大きく改善した場合は、速やかにマーケティング調査を行い、再度事業を進めていく方針を

残していく必要がある。

【参加者C】

・建築の専門学校に通っている。生まれ育った岡崎が好きなので、より豊かなまちになるための話し合いに貢献したいと思い参加した。

・大きな会議室という案があるが、必ずしも実空間で設ける必要はあるのだろうか。オンラインで代替できるのではないか。そもそも既に岡崎に大きなホールは存在しており、利用頻度が少なくではみんなが平等に使える場所ではない。実空間で新設する意味を明確にし、みんなが平等に使える場所を複合施設の一部に作りたい。

【参加者D】

・市長はコンベンションホール建設中止と言われていたが、私は3点の理由から建設に賛成だ。1点目として、もともと企業誘致を目的としていた。2点目として、避難場所の確保。3点目として、市の信頼回復をしていかなければいけない。

・1点目の企業誘致だが、アンケートでは「ぜひ使いたい」という企業からの意見があった。さらにコロナ禍で失職した方も、コンベンションホールが活用できるのではないか。

・2点目の避難場所の確保だが、東南海地震の発生確率が70%といわれている中、広い避難場所として利用できる。

・3点目の市の信頼回復だが、話が二転三転すると企業からの信頼が失われてしまうため、建設を進めて信頼回復に努めるべきではないか。例えば、大統領や政策が変わる国とは信頼が築けず付き合いづらい。

【参加者E】

・若い頃は記者として働き、フリーランスになってからは民間・国・自治体から委託され情報誌の編集を掛け持ちしている。その仕事を通じて青森から沖縄まで全国のまちづくりを取材してきた。外部から見て岡崎はまちづくりの取材対象としては、特徴が薄く情報発信の弱いまちだという印象を持たれている。

・岡崎市のQRUWA戦略は地方都市再生プロジェクトとして国から認可を受け、過去3年にわたり30億の交付金が下りている。さらに2021年度からは新しい岡崎市のまちづくりが全国12都市の一つとして認定されており国からは評価されている。それを岡崎市側からちやぶ台返しするのは、これからのまちづくりにとってプラスにならない。したがって、コンベンションホールの建設中止には反対だ。

・今まで国から認定された形は残しつつ、顴骨奪胎（かんこつだったい）して中身の違うものにしてはどうか。コンベンションホールとしながらも、さまざまな方が集まってアートを楽しんだり、障害を抱える方が働けるような場所を地元の企業と連携しながら作り、経済活動の拠点とするのはどうか。多様な人々が創造活動・経済活動を楽しみ、周辺企業も協力する。そのように多様性と創造性を持ちつつ、岡崎の歴史・伝統を情報発信してほ

しい。歴史的な産業観光など、さまざまな活用可能性がある。

【参加者F】

・人に優しい市政を市民サイドから進めていくために、市民団体を仲間と共に立ち上げた。私たちは中根市政Q&Aというチラシを周りの方々に見てもらっているが、たくさんの市民本位の市政が行われてきている。さらに大きく進めていきたい。

・民主政治は民意が根本だ。選挙で選ばれた公約を市民が支持して候補者が当選して実行するという意味でいえば、当初のコンベンション計画はきっぱり中止するのが筋ではないだろうか。市民による市民のための太陽の城跡地活用が原則である。

・コンベンション計画は市議会の四つの会派の申し入れによって凍結しているが、住民基本条例を作り、もう一度コンベンション計画の善し悪しを問えばよい。そのような手続きを踏まずに凍結したことは、非常に不可解である。

・愛知には既に立派なコンベンションホールがあり、多くの利用は見込めないと思う。さらにコロナ感染の長期化による経済の停滞やオンライン会議の普及も考えると、企業も利用を躊躇するのではないだろうか。

・最終的には多額の税金を使うことにもなり、現役・将来世代に多くの負担を背負わせる。今、そういうことをすべきではない。

【参加者G】

・不動産の管理・開発をしている。地元で、桜城橋・中央緑道・籠田公園の整備を行い、それに伴って周辺で連携を取り、大型事業に対して地元で365日生活する者として意見交換をしている。

・昨日、同じテーマで地元の会議が行われたため、その結果に後で触れさせていただきたい。

【参加者H】

・ガラ紡を仕事にしている。太陽の城跡地の活用について、この1カ月さまざまな意見を聞いた。

・コンベンションには、交流・会議・展示という意味があるが、その中の一つに合意というキーワードがある。コンベンションホールには市民の合意があるのか非常に疑問だ。合意を得るためのプロセスが足りていなかったのではないだろうか。まず住民基本条例を市長からの提案で作っていただき、中止・変更・実行の三つについて住民投票を行い、市民の同意を得てから先に進めてはどうだろう。

・市長はグラデーションになると言ったが、コンベンションホールであればコンベンションホール、そうでなければそうでなくてもいい。しかし、それを決定するのは岡崎市民の一部ではなく、なるべく多くの総意が必要である。

【参加者I】

・現在大学4年生だが、高校生のときからまちづくりのお手伝いをしてきた。太陽の城跡地の活用においては、場所が空いているからではなく、この場所であることが最も重要である。ここはQURUWAの中でも河川敷に近く非常に良い土地であって、QURUWA戦略の一部として機能する施設が良い。

・コンベンションホールでもホテルでもよいが、観光客だけではなくて地元民にも開けており、市民にも利益が感じられるスペースにしてほしい。

【参加者J】

・54年前に岡崎市の歴史・文化に惹かれて移住した。結論から言うと、私は太陽の城跡地の活用を凍結して意見を諮ったほうが良いと意見を出した。しかし、今日皆さんのご意見を聞いて、良い線が出てきたように感じている。

・この会場（りぶら）は、50年前には夏は流水プール、冬はスケートリンクだった。当時、他市から岡崎市は若者たちが集う人気のある施設が公的に作れるのはすごいと言われたと聞いている。ただ、残念なことにその後、造られた「三河小町」はあっという間に姿を消した。

・たくさんの意見を積み重ねて良い施設を造っていただきたい。岡崎市を終の棲家にしたかったので、子どもや孫に良いまちを残していきたい。

・全国を見ると岡崎市はいろいろなものが豊かにあり過ぎるため、中で賄おうと思ってしまふ。しかし、もう少し外から見て岡崎市がどういうまちかを学び直してもいいのではないか。もう少し広げて周りから取り込んでいけるとよい。

4. 意見交換

立地条件を活かした活用

【市長】

・コンベンションホール計画の関係者の皆さまから与えられている時間は今年度いっぱい、そのような制約のある中で議論しなければいけない。

・立地条件を最大限に活かしたいというのは、市民の共通認識ではないだろうか。その中には税金を投入すべきではないというご意見や、現行計画が最善であるというご意見もある。さらにグラデーションの中間地点に答えがあるということは、大事なポイントだと考えている。

【参加者E】

・太陽の城跡地のロケーションを活かすとともに、新しいものを造るという考え方もある。例えば、立派なビルではなく多様に活用できるささやかな施設や子ども食堂の拠点にすることもできる。

・さらに集まった食材を市外のホームレスの方のために提供すれば、岡崎市は市内外限らず困っている人を助けるまちだと示せる。それは岡崎の歴史・文化と無縁ではない。福祉・多様性・創造性を新しい岡崎のまちづくりコンセプトとして広く発信できるのではないか。

【参加者 I】

・コンベンションホールやホテルに反対というわけではなく、市長が言ったように時間があまりないことを考えると、現行計画に何か加えるのが現実的だと思う。

・QURUWAの一部として河川敷が機能すると、例えばキャンプなどの利用も増える。その際にコンベンションホールやホテルのお風呂が市民にも開けたサービスとなれば良い。

【参加者 G】

・地の利を活かして造っていただくのは大歓迎だが、決して地元の市民全員が賑わいを求めているわけではなく、治安の良い場所で安心して余生を送りたいという意見もある。コンベンションホールについても賛成・反対と真っ二つに分かれている。

・さらに必ず駐車場の問題は出てくる。有料駐車場はあるがお金を払って公園に行くという感覚に岡崎市民は抵抗がある。違法駐車・無断駐車、スケートボードによる器物破損という問題が発生しているのも事実だ。

【参加者 D】

・コンベンションホールという目線でいえば、花火が良く見える場所なので開放的な屋外を造ることが考えられる。

賑わいの創出

【参加者 B】

・話のスタートとして岡崎市を観光都市にしていくという構想がある中でホテルが必要だ、地元の経済界からもコンベンションホールが必要だという意見があった。

・観光都市としてのポテンシャルは高くない。市外・県外を見据えた事業にするのか、市民を中心に据えて考えるのか、対象をどこに設定するかが重要な問題となる。近辺のホテルの稼働率を考えると、コンベンションホールの建設はどうだろうか。

・この場所が中心市街地のように消費地域になることはないと思う。歴史と文化・魅力的な暮らしに出会うまちというコンセプトで、これからも考えていけばいい。どの程度を賑わいというのか定数的に出して、事業計画を立てていく必要がある。

市民・子ども目線での空間づくり

【参加者 A】

・太陽の城跡地は岡崎の中では交通の便が良い。車社会においても子どもがバスに乗って

自由に来られるというのは非常に大きい。

・まちの賑わいも重要ではあるが、まずは市民目線に立って市民が求めている施設を造ってほしい。その上で外部の人に目を向けるべきであって、順番を守ってほしい。コンベンションホール建設では、市民や子どもを全く見ていない。自分たちが使えない施設のために、これから子ども世代が税金を払っていくのは納得できない。

・他の自治体では区に一つは児童館がある。なぜ岡崎はないのかという思いから児童館を提案した。子どもたちが親の送迎なしでも、ふらっと寄れる交通の便の良さ。川沿いでばおっとしてもいいと思う。子ども食堂もそうだが、まずは子ども目線での空間を設けてほしい。

【参加者D】

・一番の肝は、造った後にどう活用するかだ。岡崎市の他の会議室は、確か50%程度の稼働率だったと思う。例えば、瑞浪市の科学館には幾つか会議室があるが、土日は子ども向けに実験イベントを開いている。そのような活用を考えるのがいい。

【参加者C】

・岡崎市の過去の功績や歴史を重んじる施設が大切なのは分かるが、個人的には未来を想像しワクワクできる未来館が欲しい。最先端の科学技術やSDGsの体験施設を設けて、新しく学び・創造する場所であれば未来の子どもたちにとっても良い場所になる。

【参加者F】

・市民のための跡地活用には大賛成だ。茅野市は5万数千人の人口だが、1999～2005年の足掛け6年間にわたり市民館を造り上げた。美術館・マルチホール・コンサートホールの文化複合館だが、通路が図書室になっており勉強もできる。コンセプトは市民一人一人が主役になれる市民の広場だ。

・途中からは地元の経済・産業活性化のために、建設会社の展示会、商工会議所の就職セミナー、JAの花・野菜の品評会にも使われており、市民の生涯学習と地域文化創造の交流拠点としての施設となっている。市民が中心に構想・立案し造り上げ、それを行政が予算面で支援した。

・当初のコンベンションホール計画には反対だが、市民のための複合的な跡地利用については1～2年かけて調査・研究するための委員会を立ち上げ考えることを提案する。その際には、経済論理ではなく福祉論理で進めてほしい。地方自治法の第一条の二に基づき、市民が幸せな生活づくりをするために行政が支援するという意味での福祉の観点を、太陽の城跡地事業でも貫くことが必要だ。

住民投票により広く市民の声を聴く

【参加者H】

・市民の声はとんでもないものから良いものまでさまざまだが、どう折り合いを付けるかが大事である。広聴会に参加できない方や議論を全く知らない市民はたくさんいる。実施計画・変更・中止から一つを選ばなければいけないとすれば、その方々を取りこぼさないための住民基本条例を作っていただきたい。

・岡崎市長選でコンベンション計画を再考すると訴えた市長が当選した。私はこれが民意だと思う。しかし、市長の公約はコンベンション計画再考だけではないという意見もあるため住民投票をしてほしい。

・その時間がないのであれば、大規模なアンケートを採ってほしい。市民の税金や日々の暮らしで形づくられたまちの在り方について、もう一度問い直すきっかけがコンベンション計画の賛否で分かればいいと思う。任せて終わる民主主義から参加する民主主義に岡崎市が変わるための大事な一歩である。

【市長】

・住民投票は非常に重く貴重なご意見だが、今回は時間がないのが事実である。既にある計画に対して市民の皆さま方のご意見を聞き直して加味していくという意味合いのため、来年度予算に新たな計画を盛り込んでいこうとすれば、与えられた時間は年内いっぱい議論の限界であることはご理解いただきたい。

・だからこそ、今日こうして市民広聴会という形で皆さま方のご意見を承っており、既に何回も機会をつくり、これからも繰り返していく。さらに7月3日からはパネル展示・アンケート調査も行っている。

・例えば、憲法9条に賛成・反対というだけではなく、平和や戦争にはさまざまな思いがあるように、市民の皆さまのご意見は必ずしも3通り（実施・変更・中止）には分けづらく、住民投票ではその中間が汲み取りにくい。そのため、私は直接ご意見を承る機会を数多く持つという手法を取っている。

検討に時間をかける方法

【参加者J】

・私は小さな環境保護団体の代表を30年ほどしている。北海道で大木を切って高速道路にするという計画があったが、住民や学識者が会社へ直接交渉して道路を迂回させた。市長さんは年内にと盛んにおっしゃっているが、これだけたくさんのご意見が出ているのに本当に迂回する方法がないのだろうかと残念に思いながら聞いていた。

【市長】

・ここでご意見を表明していただくことで、この大切な機会を有効に活用してほしい。

設備費の負担について

【観覧者A】

・PFIの場合は、設備費を企業に負担させる契約にしてほしい。そうすれば住民もある程度、納得してくれる可能性がある。税金でやる場合は、住民の意見を反映しなければいけない。

QURUWA戦略の地元への影響

【観覧者B】

・参加者Gの方にお尋ねしたい。実際にQURUWA戦略は地域の方に対して、本当に利益や活性化に結び付いているのだろうか。

【参加者G】

・さまざまな利益を感じている。商売という面では、東康生や南康生においてはQURUWA戦略によって出店が増えている。

・治安という面では、お子さま連れの方は籠田公園の治安の良さを感じていらっしゃると思う。特に西康生にマンションが増え、中央緑道でも車が突っ込むような危険性がないので安心していらっしゃるのを感じる。自治会としても住民の増加に伴って町内会費が増えるという利もある。

・駐車場やスケボーは微々たることで大きな問題ではなく、利のほうが大きい。

・自治会としては首長が選ぶことに関しては一切反発せずに受け入れる。籠田公園・中央緑道もいきなりできたものではない。われわれは5年の工事に耐え、完成後も清掃を行っており、非常に利を感じているという答えになる。

公共は市民のためにある

【観覧者C】

・公共施設は市民のためにある。市民が潤って岡崎市には素晴らしいところがあると、他の地域に広がって初めて観光に結び付くのがベストである。したがって、本当の意味での民主主義、市民の意見を聞きながらまちをつくり上げていくことが、本来のまちの素晴らしい意義に繋がる。

5. 総括

【市長】

・「どうする太陽の城跡地」というテーマの核心に触れるお話と周辺に関わるお話、さらに民主主義の在り方に関わる議論と、それぞれが傾聴に値する貴重なご意見であった。

・本日のテーマに絞って感想を述べさせていただくとすれば、ご参加の皆さま方は生活の満足度を高める活用の仕方を望んでいると感じた。その裏返しとして、観光客やビジネス

の観点も大切だけれども、まず第一に、市民が望み市民のためになる活用の仕方を大事にしてほしいというのが共通ではなかっただろうか。

・多くの市民の皆さま方の意見を聞いて、じっくり汲み取るべきであるというご意見には大賛成だ。だからこそ限られた時間の中で、できる限り多くの市民の皆さま方のご意見を継続的に聞き取り、市民が主役となった結論を導き出したい。

・今日のような1コマ1コマが積み重なっていけば、必ず良い結論が出せると確信している。そのために今後も意見交換会・パネル展示・アンケート調査も行っていく。全てのご意見に耳を傾け、多数寄せられたご意見は重要視していかなければならない。

【司会】

・このテーマについてさらに市長と話したいという方は、団体向け公聴会の希望団体を募集しているため応募をお願いしたい。

・今回の内容については、後日ホームページなどで広く周知することで皆さんに市政への関心を高めていただき、より良いまちづくりへ繋げていきたい。

(了)